

《2017年医学生セミナー春期・GW》 計13名分

【船橋二和病院】

今回のセミナーではカンファレンスや家族への説明、リハ外来などを見学し、以前より具体的なリハビリテーション科の業務を理解することができたと感じました。

例えば、これから退院する患者さんについてカンファレンスをする際は、医師や看護師はもちろん、担当の理学療法士やソーシャルワーカーも同席し、患者さんが退院した後も困らないようにどのような手段を使って配慮ができるかを話し合っていました。チーム医療というと、それぞれの医療従事者が最大限役割を果たすために業務の分担をしつつ、連携をとることが大切であると今まで学習してきましたが、医師が検査などのデータを見ながら普段の患者の状態を把握している看護師や理学療法士の話聞き、ソーシャルワーカーと退院後の進路を考える様子はチーム医療そのものであり、学ぶことが非常に多かったように思います。

また、リハビリテーション科の外来では、患者さんの状態を確認することにより、このまま今の生活が続けられそうか、それとも他に何か対応を追加する必要があるかを判断していました。長く患者さんを診ている医師が、患者本人だけでなく、その家族や周囲の状況なども考慮して診察しているのが印象的でした。今まで家族のサポートが得られていた人でも、家族が体調を崩すなどすることにより治療方針を変えなくてはならない場合があることは、当たり前のことかもしれませんが、患者さんの立場から考えると非常に重要な問題であり、リハビリテーション科の大切な役割であると感じました。

他にも、造影検査の見学をしました。研修医の先生の話によると、「口から食べたい」という思いの強い患者さんで、しっかりと評価してできるだけ希望に沿えるようにしたいということでした。リハビリテーション科は機能の回復のためにリハビリそのものだけでなく、その前後の評価も同様にとっても重要であることを改めて学びました。

さらに、普段は直接見ることのない理学療法士の仕事内容も見学しました。理学療法士は医師の指示をただ待つのではなく、リハビリをしながら患者さんの状態をみて、医師に意見を伝えてさらに良い結果になるようにしているという説明が印象に残りました。医師と理学療法士が活発にやり取りできる環境はお互いを助け合えて理想的であると感じました。

今回のセミナーで幅広いリハビリテーション科の業務を見学させていただきました。充実した内容で、とても勉強になりました。これから大学でのポリクリなどでリハビリテーション科をまた見学する機会があれば、より一層興味を持って取り組みたいと思います。

【藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座
・藤田保健衛生大学七栗記念病院】

医学部 4 年生

リハビリ科での授業が大学で始まったばかりでリハビリに関する知識がほとんどない状態でしたが実際の検査の体験、患者さんとの問診などから基礎から実践まで経験できた点が非常に勉強になりました。またポリクリでもこちらに来る機会があるのでさらに多くのことが学べるようしっかりと勉強したいと思います。ありがとうございました。

医学部 4 年生

リハビリ科の印象が本当に変わりました。医学部に入ったばかりの時には医師が行っていることも知りませんでした。先日より講義を受けて全体像はなんとなく見えてきましたが実際の現場を見て医師の役割、体験内容が分かってきて本当に充実した時間でした。多くのことを学ぶことができるとともに、様々な体験ができて楽しい時間でした。多くの先生方にサポートしていただけてとても良かったです。またポリクリなどを通して知識を蓄えてまた参加したいと思います。今回は大学病院のセミナーに参加できなかったので、次回は是非参加したいと思います。本当にありがとうございました。

医学部 5 年生

リハビリにとっても興味はあるのですが普段学校でリハビリ関連の話をする機会は5年間でほぼなかったです。こちらのセミナーでリハビリに興味がある人と話ができることが貴重で非常に嬉しかったです。もっとたくさん現場を見て卒業までにリハビリ関連の知識も増やして今後の進路を考える材料を増やしていきたいです。大変ありがたいセミナーに参加させていただきありがとうございました。

医学部 5 年生

セミナーに参加してみてリハビリ医とは何をしているのか具体的にわかってとても良かったです。大学では見る機会が限られているので参加できて良かったです。装具も見たことはあっても実際にはめてみて歩いたことはなかったので新鮮でした。装着有無で動きがこんなに違うのかと驚きました。磁気刺激で脚が動いた時は感動しました。ロボットを用いたリハビリについて学んでみたいです。患者さんとお話できてリハビリを行う中での苦しみや喜びについて少しでも知ることができました。ありがとうございました。

医学部 5 年生

昨年も参加していますが、今回は時間にゆとりがあるように感じました。患者さんと接する時間やリハビリの様子をじっくり見学できて大変良かったです。グループワークにもうまくつながったので患者さんの現状や今後の課題、きちんとまとめることができたように思います。前回は2日目の参加ができなかったので筋電図検査などの実習も記憶に残りました。今後に生かしていきたいです。最後のインタビューでは患者さんの生の声を聞かせてもらう機会はこれまであまりなかったことであり、大変貴重な時間でした。こちらも勇気付けられ頑張ろうと思いました。機会があればまた参加したいと思います。

医学部 6 年生

今回は2回目の参加でした。リハビリ科は大学での実習の機会が少ないのでとても貴重な時間になりました。リハビリ科は他の科と異なり生活状況の改善、悪化の防止が考えられており病気そのものよりも生活の関わりという面ではより患者に密着してものであると思いました。私の知り合いの医師も「リハビリ科って何してるの？」という状況で多くの方はオーダーしているのみかと思いました。そういった中でリハビリの進んだこの病院を見学できて本当に良かったです。

研修医 1 年

1年ぶりの参加でしたが先生方に覚えていてもらえて嬉しかったです。1年前と変わらず暖かく迎えてくださりご指導いただけるとても良かったです。ありがとうございました。2年後の進路の展望が見えず悶々としていましたがまたじっくり考えてみたいと思いました。また参加させていただく機会がありましたらよろしく願いいたします。

研修医 1 年

2日間というとても短い時間ではありましたがリハビリ医の先生方にお話しを伺ったりレクチャーいただいたり実際に患者さんの診察をさせていただいたりとても中身のあったセミナーでした。医学の進歩により生命予後は延長されてきた今、健康寿命が重要と認識されるようになった中でリハ科は大きな鍵を握る診療科であるということを感じました。

研修医 1 年

患者さんの目標を立てるとき、様々な制約をもとに目標設定しがちですが本人、家族の希望をよく知って、適切に身体能力と見込める予後进行评估することの大切さを感じることができました。まだリハビリ科で働く「医者」の役割を十分理解仕切れていないので（特に急性期）今後、学んでいきたいと思います。

研修医 2年

ちょうど良い時間配分で多くのことが学べました。今までかなり漠然としていたリハビリのイメージが少しつきました。視点も変わり良い機会となりました。

医師

VE や筋電図、嚥下食事の体験、嚥下・排尿講義など普段できない経験・学びをさせていただきました。これからの診療で患者さんに還元していき、患者さんの生活をよりよいものにしていきたいです。また参加したいです。

【兵庫医科大学リハビリテーション医学教室】

大学での授業や実習では、まず神経内科に興味を持ちました。全身に張り巡らされた神経が、臓器や精神の活動に関わっていることが面白かったからです。勉強する中で、神経内科の多くの疾患は嚥下障害や運動障害を示し、QOL が悪化することが多いということが気になりました。そこで、「治療が終わったら、その後はどうなるのだろうか。体が思うように動きにくかったりしても、そのままになってしまうのだろうか。」と疑問に思うようになりました。このことがきっかけでリハビリ科を知り、興味を持つようになりました。しかし、私の大学ではリハビリ科の授業が少なく、また、実習でも学ぶ機会がほとんどありませんでした。よって、リハビリ科の体系的・具体的なイメージを描くことができないままでおりました。

リハビリ科の実際を知りたいと思い、今回のセミナーに参加させていただきました。講義、診察見学、嚥下造影検査見学、ロボット体験、嚥下食体験、装具診察見学といった現場を見せていただき、また教えていただきました。教科書を読むだけではなかなかイメージしにくい内容も、実際に学ぶことで掴むことが出来ました。改めて現場を学ばせていただくことの重要さと有難さを実感いたしました。

1日という短い時間でしたが、とても充実した時間を過ごさせていただきました。ご指導くださり、ありがとうございました。